

てつほく通信

第 49 号 平成 30 年(2018 年)3 月発行
 手稲鉄北まちづくりセンター
 手稲区曙 7 条 3 丁目 6-22
 TEL 684-0048 FAX 684-0657



このてつほく通信は、札幌市ホームページ「手稲区・手稲鉄北まちづくりセンター」からもご覧いただけます。

笑顔でスタート！

前田森林公園で「歩くスキー」



3月4日（日）前田森林公園において、手稲鉄北まちづくり協議会が主催する「歩くスキー」が開催され、地域住民 49 人が参加しました。この日は、朝から雨が降るあいにくの天候でしたが、午前 11 時には雨も上がり、参加者たちは笑顔でスタートしていきました。



▼この日初めてスキー板をはいた 4 歳の男子（写真手前）も悪戦苦闘しながらコースを 1 周して笑顔。



▼汗を流した後は、熱い豚汁と温かいおにぎりが振る舞われ、おいしそうに口にする参加者も笑顔。



手稲鉄北まちづくり協議会の取り組み

手稲鉄北まちづくり協議会が、が主催したさまざまな事業をご紹介します。

ハグ HUG体験講座(2/15)

災害が発生したあとに設けられる避難所をどのように運営するか考えてもらうための「HUG（避難所運営ゲーム）」が行われ、町内会の防災担当役員など26人が参加しました。

参加者たちは、5人程度のグループに分かれ、一般的な小学校施設をモデルにして、さまざまな家族構成や健康状態の避難者たち、さらには支援物資提供の申し出や問い合わせなどが書かれたカードを順番に読み上げ、どのように対応するかを決めていきます。

平成28年の熊本地震では、組織的な運営がしっかりした避難所では住民のストレスが少なかったこともあり、参加者は真剣な表情で話し合っていました。【鉄北コミュニティープラザ】



マイタウン・マイフラワー 講習会(3/16)

種から花苗を育てるコツを学んでもらおうと例年この時期に開催しているもので、56人の住民が参加しました。

講師のガーデニングコーディネーターの加藤清春さんから、土のダンゴに花の種を練り込む「たねダンゴ」と呼ばれる種まきの手法を学びました。

ピンポン玉程度の大きさに土を丸める作業では、参加者は楽しそうな表情で手を動かし、会場は終始和やかな雰囲気になっていました。

【鉄北コミュニティープラザ】



トピック

寒い中でも奮闘する手稲稲山地区の皆さん

2月11日(日)～12日(祝)に開催された「ていね雪の祭典」の飲食コーナーに、手稲稲山地区の「稲山まつりの会」が出店し、両日ともに朝早くからもちをついて、もちまき用のもちを提供しました。

また、2月16日(金)には手稲稲山連合町内会による「路上駐車防止夜間合同パトロール」が行われ、町内会関係者や交通安全指導員、手稲警察署、手稲区土木センターの職員ら25人が参加しました。

「ていね雪の祭典」の出店ともちまき用のもちを提供(2/11～12)



夜間合同パトロール(2/16)



学生たちとともに今後について意見交換

手稲鉄北まちづくり協議会では、北海道科学大学の学生を交えた意見交換会（ワークショップ）を2度にわたって開催しました。今後も学生と連携した取り組みを進めていきます。



「もちつき大会」を振り返るワークショップ（2/6）

昨年の秋から冬にかけて開催した「もちつき大会」の振り返りと今後について、当日会場の運営に携わった北海道科学大学未来デザイン学部の学生たちも加わって、地域住民らとともに意見交換を行いました。

話し合った内容はグループごとに発表し、意見を共有しました。

【鉄北コミュニティープラザ】

冒頭、ぐんていぬを紙コップに入れる「ていぬころがし」のゲームで、緊張を解きほぐしてから意見交換を始めました。



ワークショップで出された意見（抜粋）

- 高齢者が参加しやすいように休憩スペースを広くする
- 「昔遊び」コーナーを復活させてはどうか
- 参加した学生が体験談を発信してはどうか
- 部活動の一環など中高生に来てもらえる工夫が必要

「地図を見ながら考える防災活動」ワークショップ（2/22）

同協議会において、平成28年度に完成した「手稲鉄北地区防災マップ」を活用して、地域の防災活動をより良いものにするため、北海道科学大学工学部の学生たちも加わって意見交換を行いました。

【鉄北コミュニティープラザ】

冒頭、ぐんていぬを積み上げて競う「ていぬツムツム」のゲームで、緊張を解きほぐしてから意見交換を始めました。



ワークショップで出された意見（抜粋）

- まち歩きや防災スタンプラリーなど楽しい企画を
- 地域の「防災の日」をつくってはどうか
- イベントでは防災ブースを設置して募金や情報発信を
- 書き込めたりエリアを小さくしたりしたマップも良い

福祉のまち推進センターの交流・体験会

手稲鉄北地区福祉のまち推進センターでは、ひだまりサロン（同地区社会福祉協議会）との初の共催により、2月と3月に工夫を凝らした交流会や体験会を開催しました。



高齢者擬似体験（2/14）

参加者たちは、年を重ねることで起こる骨や筋肉の変化、生理機能の低下などについて説明を受けた後、身体的機能の低下を体験するための用具を実際に装着していました。

その後、スタッフが調理した「イモ団子汁」がふるまわれ、参加者たちはおいしそうに口にしながら、周りの人たちとおしゃべりなどを楽しみました。【鉄北コミュニティープラザ】



笑いヨガ（3/7）

笑いの体操とヨガの呼吸法を組み合わせた「笑いヨガ」を体験してもらおうと開催されたもので、参加者たちは、実際に体を動かしながら、大きな声で「ハハハ」と笑うことでたくさんの息を吐き、そして吸い込んでいきました。【鉄北コミュニティープラザ】



「笑いヨガ元気プロジェクト北海道」運営委員の櫻井英代さんが講師を務めました。



作り笑いが、やがて本気の笑いに変わっていききました。

プラザの雪下ろしと窓清掃（2/16）

有限会社三裕電業社（清田区）が地域貢献活動の一環として、鉄北コミュニティープラザ正面玄関の庇の雪下ろしや2階部分の窓清掃などを行いました。

作業は、述べ2時間あまりで終了しましたが、気持ちのこもった手入れで、プラザが明るくなったような気がします。

ありがとうございました

